

VI. 新型コロナウイルス感染症 対応関連研修委託事業 (事業部・教育研修部研修)

1. 新型コロナウイルス感染症等業務にかかる研修 (県委託)
2. 新型コロナウイルス感染症対応に従事した潜在看護職等のためのステップアップ研修 (日本看護協会委託)
3. 新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業
 - 1) 重症患者対応研修 (日本看護協会委託)
 - 2) 軽症～中等症患者対応研修
 - (1) 一般病棟・入院待機施設用 (日本看護協会委託)
 - (2) 自宅療養者用 (県委託)

1. 新型コロナウイルス感染症等業務にかかる研修（県委託）

- 1) 目的：新型コロナウイルス感染症の感染拡大とともに、保健所に大きな業務負担が発生することが課題となっており、保健所の体制整備が求められている。
感染拡大時に、保健所で保健師等の専門職が不足した場合の支援協力について、新型コロナウイルス感染症にかかる対応人材（IHEAT）を活用することとなった。
このため、保健所への業務応援をいただく方々に、新型コロナウイルス感染症に関して最新の科学的知見に基づいた知識や技術を習得してもらうことにより、保健所業務応援時に、積極的疫学調査等業務を迅速かつ適切に実施していただくとともに、保健所職員と連携・協働した業務を支援することを目的とする。
- 2) 実施主体：福岡県看護協会保健師職能委員会
- 3) 対象者：IHEAT名簿登録者、潜在保健師等 IHEAT名簿登録予定者、市町村保健師等
- 4) 受講料：無料
- 5) 開催方法：ハイブリッド形式での開催
- 6) プログラム

プログラム	講師
講義 新型コロナウイルス感染症の最新の知見	飯塚病院 的野 多加志
講義・実技 感染防護と防護服着脱について	飯塚病院 山下 智雅
講義【Web】 保健所における新型コロナウイルス感染症対応と応援者としての心構え	自治医科大学 春山 早苗
積極的疫学調査の手順について (1) 動画視聴 (2) 保健所の現状について	福岡県北筑後保健福祉環境事務所 石井 靖子

7) 受講状況 (人)

実施日	日数	定員	応募者数	決定者数	受講者数
8/6 (土)	1	100	73	73	63

8) アンケート結果 (%)

理解度 (N=50)		できる	ややできる	あまりできない	できない	未回答
		新型コロナウイルス感染症の最新の知見	84.0	16.0	0.0	0.0
	感染防護と防護服着脱について	82.0	16.0	2.0	0.0	0.0
	保健所における新型コロナウイルス感染症対応と応援者としての心構え	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	積極的疫学調査の手順について	54.0	42.0	2.0	2.0	0.0

(%)

役立ち度 (N=50)		役立つ	やや役立つ	あまり役立たない	役立たない	未回答
		新型コロナウイルス感染症の最新の知見	88.0	12.0	0.0	0.0
	感染防護と防護服着脱について	72.0	24.0	4.0	0.0	0.0
	保健所における新型コロナウイルス感染症対応と応援者としての心構え	46.0	52.0	2.0	0.0	0.0
	積極的疫学調査の手順について	50.0	42.0	6.0	2.0	0.0

9) まとめ

この研修は福岡県の委託を受けて開催したものである。今回は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、ハイブリッド形式での開催としたことで、63名の参加があった。

研修内容について、アンケートでは、「理解できる」「やや理解できる」がほとんどで、「非常に参考になった」とほとんどの参加者が答えていたことから、評価できる内容であったと考える。

しかし、ハイブリッド研修であったことから、防護服の着脱や積極的疫学調査の演習ができなかった。IHEAT研修の目的である疫学調査等業務を迅速かつ適切に実施していける人材を育成するためには、研修内容の充実と工夫が必要であると考えられる。

2. 新型コロナウイルス感染症対応に従事した潜在看護職等のための ステップアップ研修（日本看護協会委託）

- 1) 目的：ワクチン接種等の新型コロナウイルス感染症対応に従事した看護師等が感染症に対する知識や必要な看護を学ぶことでスキルアップできる機会を得ることが出来る
- 2) 目標：(1) 宿泊療養施設での看護の役割や機能を理解できる
(2) 感染管理や予防に関する知識及び技術を再確認できる
(3) 身体的なアセスメントをするための基本的な知識を学ぶ
- 3) 実施主体：福岡県ナースセンター（福岡県看護協会）
- 4) 対象者：ワクチン接種等の新型コロナウイルス感染症対応に従事した潜在看護職等
- 5) 受講料：無料
- 6) 開催日程・講師

回数	日程	内容	講師/演習補助
1回目	9/15（木）13:00～15:30	宿泊療養施設での必要な知識と看護の役割/感染管理や予防に関する知識/感染管理や予防に関する知識/身体的なアセスメントをするための基本的な知識	猿渡 恵子
2回目	12/13（火）13:00～15:30		

7) 受講状況 (人)

回数	日程	定員	受講者数
1回目	9/15（木）13:00～15:30	20	7
2回目	12/13（火）13:00～15:30	20	6

8) アンケート結果 (%)

理解度 (N=13)	できる	やや できる	あまり できない	できない	未回答
	92.3	0	0.0	0.0	7.7

(%)

役立ち度 (N=13)	役立つ	やや 役立つ	あまり 役立たない	役立たない	未回答
	92.3	0	0.0	0.0	7.7

9) まとめ

日本看護協会より新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業における「新型コロナウイルス感染症対応潜在看護職員研修事業」の委託を受け実施した研修である。実技演習では標準予防策の実際としてガウン、N95マスクの着用などを行った。また、患者・看護師役に分かれ防護服着用のままバイタル測定などの演習も行った。「防護服を着て実際に動いてみて、動きにくさや大変さを実感できた」「N95マスクやフェイスシールドを着用して会話をするのがとても大変だった」「患者の気持ちが分かった。声のトーンやジェスチャーなどでも安心感を与えられるよう努めたい」などの声が聞かれた。研修受講後のアンケートでは満足度、理解度ともに9割以上が期待どおり・理解できたと回答しており研修の目的は達成していると考えられる。

3. 新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業

1) 重症患者対応研修【オンデマンド研修／集合研修（演習）】（日本看護協会委託）

- (1) 目的：集中治療が必要な新型コロナウイルス感染患者に対応できる看護職員を養成する。
 (2) 対象者：集中治療等において重症患者への対応を行う可能性のある看護職員
 (3) 受講料：無料
 (4) プログラム：オンデマンド配信研修：300分（日本看護協会プログラム）
 オリエンテーション・講義（オンライン）：60分（5/18）
 集合研修（演習）：300分（福岡大学病院にて8回実施）
 6/8（水）、6/15（水）、6/29（水）、7/13（水）、7/27（水）、
 8/3（水）、8/10（水）、8/31（水）

内容		講師
講義	新型コロナウイルス感染症に対する福岡県の医療提供体制と取組	福岡県医療指導課職員
演習	集中治療室内で集中治療中の実際場面の見学及び演習 ①新型コロナウイルス感染症感染対策 ②気管挿管人工呼吸器装着・ネーザルハイフロー装着中の管理と看護 ③体外式膜型人工肺（ECMO）装着中の管理と看護 ④持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）装着中の管理と看護 ⑤メディカルスタッフチームによる医療提供状況 医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士等 ⑥呼吸理学療法、体位ドレナージの実際 腹臥位療法 ⑦全身管理中の患者への看護 観察、ポジショニング、チューブ・ドレーン管理、清潔ケア、口腔ケア ⑧患者・家族ケア（隔離による不安、意思決定支援、看取りケア） ⑨死亡時の取り扱い	福岡大学病院 救命救急センター 看護師 福岡大学病院 臨床工学技士 理学療法士
	全体カンファレンス 演習全体を通し学んだ事、疑問点と対応などをディスカッションする	看護師

(5) 受講状況 (人)

定員	応募者数	決定者数	受講者数
32	68	32	30

(6) アンケート結果

(%)

学びが多かった演習項目 (N=20)	講師
全身管理中の患者への看護	40.0
メディカルスタッフチームによる医療提供状況	15.0
呼吸理学療法、体位ドレナージの実際	15.0
体外式膜型人工肺 (ECMO) 装着中の管理と看護	10.0
腹臥位療法	10.0
新型コロナウイルス感染症感染対策	5.0
患者・家族ケア	5.0

(%)

満足度 (%) (N=20)	81 ~ 100%	61 ~ 80%	41 ~ 60%	21 ~ 40%	0 ~ 20%	未回答
	85.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

看護の解決につながるか (N=20)	はい	いいえ	未回答
	100.0	0.0	0.0

(7) まとめ

本研修は、新型コロナウイルス感染症に関するオンデマンド研修を受講後、福岡大学病院の救命救急センターにて、ECMO 装着中の患者などで実際の患者ケアを経験したり、ECMO のトラブルシューティングや理学療法、腹臥位療法などの演習を行う実習を行った。

定員に対して2倍近くの応募があり、本研修に対する関心や必要性の高さがうかがえた。

アンケートでは、非常に満足度が高く、全員が日ごろの看護の解決につながったと回答した。受講者全員が学びたいことや課題が明確な状況で実習に臨んでおり、実習中も積極的に指導者に質問したり、カンファレンスで意見交換をすることができていた。

上記から、本研修は目標が達成できる研修内容であったと評価する。

3. 新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業

2) 軽症～中等症患者対応研修

(1) 一般病棟・入院待機施設用【オンデマンド研修】(日本看護協会委託)

- ①目的：一般病棟、入院待機施設（酸素st等）で新型コロナウイルス感染症患者に対応できる看護職員を養成する。
- ②対象者：一般病棟、入院待機施設（酸素st等）で新型コロナウイルス感染症患者に対応する可能性のある看護職員
- ③受講料：無料
- ④プログラム：オンデマンド配信研修：190分（日本看護協会プログラム）
- ⑤配信期間：3/15（火）～令和5年2/28（火）
- ⑥登録者数：1,777名

(2) 自宅療養者用【オンライン及びオンデマンド研修】(県委託)

- ①目的：自宅療養者への看護実践のために必要な知識・技術の習得と向上のための研修を実施することにより、感染患者に対応できる看護職員を養成する。
- ②対象者：自宅療養中の新型コロナウイルス感染患者に対応する可能性のある看護職員
- ③受講料：無料
- ④プログラム：(オンライン、オンデマンドとも同じ内容)
オンラインもしくはオンデマンド配信研修：210分（日本在宅ケア学会プログラム）
- ⑤受講日及び配信期間：オンライン研修：11/30（水）
オンデマンド研修：12/6（火）～令和5年1/6（金）
- ⑥登録者数：401名

(3) まとめ

両研修とも、オンデマンド配信研修であった。(自宅療養者用研修は、同じ内容でオンライン研修も開催)対象は違うが、オンデマンド研修ということで、特に自宅療養者用研修に関しては、70%近くの受講者が訪問看護ステーション勤務の看護職員であったため、時間帯や場所を選ばない自由度の高い受講方法であり受講者の勤務形態にマッチしており、受講しやすかったたのではないかと考える。

講義は、「新型コロナウイルス感染症の基礎知識」、一般病棟・入院待機施設用研修では看護の講義内容に「緊急性の判断と急変対応、重症化予防、異常の早期発見」等、また自宅療養者研修では、「小児分野も含めた在宅での看護」や「訪問不可時のテレナーシング」等、対象に特化した内容であったため、それぞれ受講者に応じた講義を受講することができ、問題解決につながったのではないかと考える。